

静岡県立漁業高等学園・漁業のプロフェッショナルを目指す 14 人の若者が入学
海で働くための技術、知識、体力を身に付け資格を取得

日本の水産業の担い手を育成する静岡県立漁業高等学園は、東方に秀峰富士と駿河湾を隔てて、伊豆の連山を眺望できる素晴らしい環境にある。静岡県立漁業高等学園は、漁業を志す中学卒業以上の若者を対象に、全寮制 1 年間の講習において、漁業に関する知識と技能の教育・訓練を行い、漁船船員の即戦力となり、将来は漁船漁業の幹部職員となる者の養成を目的とし、これからの水産業を担う後継者の育成・教育を行っている。

空が晴れ渡り、風薫る 4 月 8 日、令和 7 年度（第 56 期生）の入学式が学園校舎で執り行われ、将来の日本の水産産業を担う 14 人の若者たちが入学し、出席者から祝福された。

入学式は開式の言葉に始まり、入学決定として入学生全員の氏名が順に呼ばれ起立すると、これからの 1 年間の学園生活を前に、生徒たちの緊張が教室に漲った。その後、式次第順に園長式辞、来賓祝辞、来賓紹介、職員紹介と式典は進み、生徒代表から誓いのことばが述べられた後、記念品贈呈が行われ、入学生を激励した。

来賓祝辞で中野弘道焼津市長は「この学園を卒業した多くの優秀な先輩たちが、水産界で活躍しています。入学した皆さんの活躍を期待します」と述べ、学業に励む生徒たちを積極的に支援していくことと、将来的に水産産業の担い手として、活気ある漁業をさらに盛り上げてほしいと生徒たちに伝えた。

近年は水産物の優れた栄養価が世界的に認識され、国民にその水産物を供給する漁業の重要性は一層増してきている。しかし、日本における水産業の現状は、漁業従事者の高齢化が年々進行し、新たな若年漁業従事者の人数も減少している。これからの日本の水産産業を担う漁業後継者の育成は、その重要性が増してきており、水産業の盛んな静岡県は、昭和 45 年に県立の漁業高等学園を設立し、多くの卒業生を沖合・遠洋漁業へ送り出している。

「海員だより」